

音響芸術科

ProTools実習3

| | | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|----|------|---|----|--------------|-----|----|----|---|
| 対象 | 2年次 | 開講期 | 前期 | 区分 | 必 | 種別 | 実習 | 時間数 | 30 | 単位 | 1 |
| 担当教員 | 柄木哲也 | | | 実務経験 | 有 | 職種 | レコーディングエンジニア | | | | |

授業概要

音楽スタジオ、MAスタジオをはじめとする録音・音声編集作業の現場において絶対的な存在である「ProTools」の基本操作をマスターすることは、現代のエンジニアとして必須のスキルである。「正確さ」「スピード」「応用力」「クリエイティビティ」を高いレベルで実現する必要がある。あらゆる現場、あらゆるシチュエーションにおいて必要な知識、技術を指導し、実践で必ず役に立つスキルを取得してもらう事を目的とする。

到達目標

「正確に」ProToolsの操作を行えるようになること。いかなる編集作業においても「応用力」を発揮し、即座に対応できる「クリエイティビティ」を身につけること。さらに作業の「スピード感」を重視し、現場レベルの時間で編集を終えることができる能力を身につけることを目標とする。

授業方法

ProToolsの編集作業の力を身につけるために、各回のテーマに沿った課題素材を使用し、正確な操作方法とショートカットを何度も反復して覚え、考えずとも反応できることを目標に習得してもらう。その後は作業時間を設定し、同じ作業をどれだけ早く行うことが出来るかをゲームのように実行し、より高いレベルを目指す。必要に応じてプレイヤーコースから随時ゲストでレコーディングを実行し、今後の課題を見つける。

成績評価方法

課題の内容、提出状況、平常点を総合的に判定する。

履修上の注意

毎回課題テーマを習得して、地道な作業の積み重ねと反復の実習により「プロエンジニア」としての基礎スキルを身につけるという観点が重要である。そのため、理由のない遅刻や欠席は認めない。また授業中の課題テーマ以外の実習進行や受講態度などには厳しく対応する。アーティストの曲を預かり、しっかりと製品として完成させるという意識が必要なため、担当した楽曲を最後まで仕上げるという責任感を重視する。

教科書教材

必要に応じてプリントを配布。

| 回数 | 授業計画 |
|-----|---|
| 第1回 | 基本的な編集作業におけるショートカットキー基本操作をショートカットキーのみで行うことができる |
| 第2回 | プレイリストの応用プレイリストを活用した編集ができる |
| 第3回 | ビートディテクティブを活用したリズム編集ビートディテクティブ機能を使い、グルーヴの抽出、リズム編集ができる |

| | |
|------|---|
| 第4回 | エラスティックオーディオ機能エラスティックオーディオ機能でテンポ、ピッチシフト変更、リズム編集ができる |
| 第5回 | サンプリングとトリガー自作のサンプリング音源の作成とトリガーができる |
| 第6回 | ボーカルの編集とピッチ修正代表的なボーカル編集のすべての工程を行うことができる |
| 第7回 | クリエイティブな編集(1)不要なノイズの見極めと編集ができる |
| 第8回 | クリエイティブな編集(2)躍動感のあるリズム修正、グルーヴの編集ができる |
| 第9回 | クリエイティブな編集(3)音楽的なピッチ、ハーモニーの編集ができる |
| 第10回 | クリエイティブなミックス(1)メータリングを活用したトラックの基本バランスを取ることができる |
| 第11回 | クリエイティブなミックス(2)ProTools標準EQの使いこなしとEQポイントを見つけることができる |
| 第12回 | クリエイティブなミックス(3)ProTools標準コンプレッサーの使いこなしとコンプレッサーでの音作りができる |
| 第13回 | クリエイティブなミックス(4)残響、歪み、搖れなど複数エフェクターの使いこなしと音作りができる |
| 第14回 | クリエイティブなミックス(5)創造力を活かしたオートメーションができる |
| 第15回 | クリエイティブなミックス(6)iTunesストアで販売できるよう最終的な仕上げをする |